

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で事業所理念・基本方針を作成し、事務所内に掲示している。住み慣れた地域での安心した生活、馴染みの人や場所との関係性の支援を念頭に実践し、月例報告を行っている。	はなみ独自の理念、基本方針を職員で作り事務所内に掲示されている。申し送り、ミーティングで振り返りをし、月例報告で実践の状況報告をされている。職員の方々も理解されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(祭り、中学校運動会、小学校生活発表会、とんどさん、初寄せ)に参加している。地元の店に出かけたり地域の方が野菜や、花を持ってきてくださる。	地域の秋祭り、とんどさん、初寄せに参加している。地域の鮮魚店がホームの玄関まで車で来られ入所者は好みの魚を買い食材にされる。地域の店が定期的にパン、菓子等ホームで販売され馴染みとなっている。小学校の学習発表会や中学生の体験学習で交流がある。保育園との交流や、ボランティアの交流は開設間もないせいもあり、今後より増やしていける予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なし			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催。利用者の健康面、専門職との連携、行事や外出支援の取り組み状況、防災訓練状況、出来事報告・ヒヤリハット状況、実地指導結果等についてメンバーに意見、アイデアを頂きサービスに反映している。	2ヶ月に1回開催されている。利用者、家族の代表、地域の方、包括支援センターで構成されている。利用者の状況、行事、外出支援、防災訓練の報告、ヒヤリハット報告話し合いが行なわれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、町内の情報提供をうけている。介護保険法第23条に関わる実地指導の受審、指導を受けている。夏祭りの行事に参加して頂き関係を深めている。	運営推進会議での係わりがある。町内の情報、感染症、サービスに必要な資料など提供がある。地域ケア会議に参加され協力関係がある。琴浦町グループホーム協議会が2月に対上げられたので今後のサービスの向上に繋がると思える。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会に月に1回参加。自分たちのケアを振り返り、気づきを報告。また、他事業所の事例も参考にし、身体拘束をしないケアを実践している。	法人の身体拘束廃止委員会に月1回参加し事例検討も行なわれている。結果についてはホームで伝達し職員も理解されている。「5悪をなくす気づきノート」がありケアの振り返り、気づきを書き込み職員で共有しケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「5悪をなくす気づきノート」を活用。ストレスが生じやすい介護場面のつらい気持ち、怒り、負担感や不満等の感情を共有する事が出来、1人で抱え込まないようにも役立っている。スタッフ同士の食事会や旅行に福利厚生費を支給している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内研修を行っている。面会者や家族にも活用して頂けるようにパンフレットを玄関に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な話し合いの時間を設け、利用料金や起こりうるリスク等の不安や疑問を伺い、理解、納得して頂きながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が司会をし、皆で思いを話し合う場を月1度「はなみ会」と称して開催し、意見要望を伺っている。出された意見は行事や外出支援、日々の献立等で具現化するように努めている。	月1度「はなみ会」の名前で利用者に司会で、利用者同士で、設備、食事、医務、日課について意見要望を話し合っている。家族については、面会時や、月1回のお便りや電話連絡の折に意見要望をお伺いし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会、ユニット会等で業務の改善課題等気づきや意見を発する機会を設けている。年2回の個別面談もあり、意見要望を聞く機会を設けている。	自己評価を管理者は職員全員に配り各自が記入、取りまとめをされた。サービス評価の本を読み合せをしケアに反映できるよう指導された。毎月の部署会、ユニット会議で改善策、気づき、勤務などの意見が言える。苑長、管理者の年2回個別面談があり意見、要望、個人目標についても言える。管理者も法人に意見要望が言いやすい	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員育成の取り組みとして苑内外の研修に積極的に参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内研修、外部研修への参加、職員間での伝達研修を行い、職員の育成に努めている。またOJT制度も取り入れて育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の研修受け入れを行った。他事業所の夏祭り、秋祭りに参加し、交流を図った。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い生活状態を把握するよう努めている。また、本人の思いに向き合いながら、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービス利用状況等これまでの経緯や、困っていること、不安に思っていることについてじっくり聞くようにしている。家族が求めていることを伺いながら、事業所としてどのような対応がでこるかを事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の思いや本人の実情を確認しニーズを探り、改善に向けた支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を模索しながら、生活の中で活かされる場面作りや役割作りを増やしている。その関わりの中で職員の知らない、昔ながらの知恵を教わりながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきを伝える事で共に支え合う関係作りに努めている。月に1度生活状況を写真を添えてお便りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーや馴染みの鮮魚店へ買い物に出かけ、馴染みの方との継続的な支援に努めている。馴染みの食堂で外食したり、出前を頼んだりして楽しんでいる。近くの温泉に皆で出掛けたこともある。	地域のスーパーや鮮魚店に買い物に出かけている。馴染みの食堂で外食や出前をしてもらい馴染みの関係が継続できている。場所の関係が途切れないよう家族により日中自宅へ外出される方もある。地域のドライブをして場所を思い出すなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員間で情報共有し把握に努めている。その時々の方の心身の状態や感情で変化する事がある為職員が間を取り持ち調整役として支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族の訪問があった際には、ゆっくりとお茶を飲みながら話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者のつぶやきや表情から思いを推し量り職員間で共有している。思いやつぶやきを引き出せるようにゆったりと丁寧に関わるように努めている。	アセスメントや日々の会話や表情の中から思いや意向の把握をされている。困難な方は表情、雰囲気、会話の中から、家族の聞き取りなども利用しながら、思いや意向の把握をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を聞き取り把握に努めている。また、馴染みの方と出会った時も情報を伺うことで家族の知りえない利用者の様子を知り得る機会となっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、共に過ごしながら表情や言動から思いを汲み取り出来る事に注目し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いや意見を取り入れ反映させるようにしている。専門職とも連携しアドバイスを反映している。月に1度モニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	利用者、家族から思い、意向を聞き話し合い介護計画が作成されている。3ヶ月に1回見直し、更新が行なわれている。変化があるときは随時変更が行なわれる。モニタリング、評価は毎月行われている。介護計画に沿った記録は確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のサービス計画チェック表で日々の生活状況ケアの実践結果を記入している。個別記録を計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族も宿泊して親子水入らずのひと時を過ごされたり、面会時食事を一緒にされたりとその時々のご希望に副った柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出掛けて読みたい本を自ら選んだり、小中学校から招待されて出掛けたり、近くのNPO法人東伯けんこうから新鮮な地産の野菜を買ったりして豊かな生活を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。必要に応じて専門医の受診を行っている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に職員同行で受診される。専門医の受診は家族、職員の同行がある。往診月2回。定期受診月1回。家族、職員、かかりつけ医と連携があり適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、往診時に日々の生活状況が記録してあるチェック表を確認して頂きながら関わりの中で捉えた情報や気づきを報告し、相談している。また、いつもと様子が違うとき等電話で報告相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供したり、安心して治療できるように職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアについて家族に話をし、希望があれば支援していく方針である。医師、家族と連携を図り、家族の気持ちや本人の思いに注意を払いながら対応していきたい。重度化している方にもPT・STと連携しケアに反映している。	契約時にターミナルについて説明され同意書がある。方針が文章化されている。法人で研修があり参加しホームの職員は理解している。現在ターミナルの方1名おられ訪問看護毎日利用。医師週1回診察が行なわれ家族、職員、関係者とチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについての研修に参加され職員も方針を共有され取り組まれています。今後、死生観について職員の研修を行い終末期のあり方を支援されと良いかもしれません。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修で防災に加え、救急時等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て日中、夜間を想定し避難訓練を実施している。夜勤に入る際には、懐中電灯とヘルメットを自分のサイズに合わせて準備し傍に置いている。	夜間想定、避難訓練年4回実施されており、その内、消防署立会年1回となっている。防災学習も年1回実施されている。職員の方の意識は高い。花見地区と連携しているがまだ参加は無い。水、食料、ストーブ、灯油の備蓄の用意も確認できた。	火災や地震、水害等の災害時に、消防署の救助時利用者の居室に単送、護送の目印があれば救助がすばやくできると考えられる、工夫をされたい。普段から災害を想定し利用者とともに避難場所に出るなど外出を兼ねた練習を考えられてはどうでしょうか。運営推進会議で地域との協力、避難場所、救助の方法など話し合われてどうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内研修で全職員が学ぶ機会を設けている。身体拘束廃止検討委員会でも力を入れて取り組んでいる。5悪をなくす気づきノートでも取り組んでいる。	法人研修で全職員が学ぶ機会がありホームの職員も理解できている。「5悪をなくす気づきノート」を活用して人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。声がけ等もさりげなく行なわれました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に声をかけるようにしている。自己決定が難しい方には、表情や言動から汲み取りながら選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その時々希望を聞き入れてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理美容店で希望にあわせたカットをしている方、馴染みの化粧水や乳液を使用している方、ハッピー号利用し、毛染めやパーマでおしゃれを楽しんでいる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を包丁で切ったり、盛り付けたり個々の出来る力を発揮してもらい、職員も一緒に食事している。片付けも自主的にしている。お米を研いだ後手加減で水の量を合わせる方、魚をさばける時もある。出来る場面をつくるように取り組んでいる。	一人一人の出来る力を引き出し、職員とともに野菜を切ったり、盛り付け、食器洗いなど支援が行われている。訪問時ターミナルの方が刺身を食べたい希望があり希望に添って提供されていた。又、他の利用者と一緒に職員の介助で食事をされていて穏やかな雰囲気風景だった。職員も一緒に食事をされ会話とともに和やかな雰囲気だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方には、個別記録表を活用し、かかりつけ医と連携をとりながら対応している。好みの食べ物や飲み物等を提供したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。週2回入れ歯洗浄剤で消毒している。個々に合った物を使用し、口腔内を清潔に保つように取り組んでいる。口腔ケアの研修を伝達しケアに取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながら案内を行いトイレで排泄できるよう支援している。オシメ使用の方でもポータブル案内する事で排便できるよう取り組んでいる。	排泄チェック表を活用しながら、排泄パターンや様子を察知し、早めのトイレ誘導、案内を行い排泄時の失敗を減らすなど自立に向けた支援が行われている。ポータブルトイレを活用しながらの支援も効果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	7分で精米したお米に麦を混ぜている。ヨーグルトを1日1回食後に出し、毎食1品以上にきのこを取り入れる。わかめ等海藻類も取り入れるようにしている。献立を立てる時のポイントを取り決めてあり、目安としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を聞きながら入浴していただいている。同姓介護を希望する方、異性の介護を希望する方とそれぞれあり、なるべく希望を聞き入れながら個々に合った支援をしている。	週3回は入っていただけるようにされ、概ね午後入浴となっている。拒否のある方は職員を変更する、タイミングを合わせるなど工夫をして支援をされている。新設ということもありまだなれない方には同性介助も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて安心して寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に綴り、効能、副作用について理解できるようにしている。処方薬についても引継ぎノートに記入し服用時からの経過を引き継ぎ、異常がないか連携して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり準備、食事作り、食器洗い、食器拭き、洗濯たたみ、洗濯干し、モップ掃除等の日課やちぎり絵、生け花、パズル、塗り絵など楽しみながら取り組んでいる。らっきょう、梅干し、干し柿、干し大根、金山時味噌作り等教わりながら作った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に副い散歩、買い物、ドライブに出かけられるよう支援している。夫の月命日にお寺へお参りする支援を長男に協力してもらっている方、中山温泉に皆で出掛けたりした。家族が受診対応出来る家族には出来るだけ協力して頂いている。	ホームの周りや併設の特養までゴミ捨てに行くなど外出している。買い物、ドライブなど希望に支援が行われる。利用者全員の外出記録の一覧があり、個々の外出状況の把握を行ない、今後の計画作成にも利用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は職員が行っているが、レジで支払う際に渡して、支払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたい時、プライバシーに配慮し子機を使用し自室でゆっくり話ができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良いときはベランダに椅子を用意してお茶タイムを楽しんだり、廊下やホールの窓際にソファを置いて思い思いに過ごせる空間作りをしている。本人用のひざ掛けやクッションを使用し過ごしやすくしている。	雛飾りが玄関、廊下、居間に飾ってあり季節を感じられた。季節の生花も廊下、居間、食事テーブルにかざってあり心地よい雰囲気作りをされていた。新築と言うこともあり採光や使い勝手を考えた設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、一人で過したり、仲の良い方同士ゆっくりくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた品々を思い思いに飾っている。家族も新しい写真を持ってきたりくださる等本人の思いを汲んで協力されている。	居室に利用者本人が生けられた生け花があり穏やかに過ごしておられる姿を感じられた。また使い慣れた家具や家族との写真なども飾ってあった。室内は整理整頓されていて居心地よく過ごせる配慮が伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士に相談しながら個々に合った福祉用具、自室環境整備、リハビリメニュー等アドバイスを受けている。		